令和７年度　３年生

普　通　科

進学コース

科・コースガイド

高崎商科大学附属高等学校

【国語科　シラバス】

科目名	論理国語			使用教材	教科書	新編論理国語（大修館書店）
学　年	3	単位数	2		副教材	学習課題ノート（大修館書店）
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

国語で主体的・対話的で深い学びをとおして、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考えたり批判的に読んだりする力・他者に共感する力・想像する力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める態度を育てます。また、言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育む態度を育てます。

【学習方法と授業の進め方】

「論理を培う」「論理を活用する」の２部構成となっています。第３学年では第Ⅱ部「論理を活用する」を学習し、基礎的な論理的思考力を育みます。ＡＩ（人工知能)、コミュニケーション、自然科学、情報社会とメディア、環境問題、労働と生きがいなど、現代社会を生きる上で重要となるさまざまなテーマを押さえ、生徒の興味・関心を喚起します。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすることができているか。 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができているか。また文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができているか。 ・主張とその前提や反証 など情報と情報との関係について理解を深めることができているか。	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・立場の異なる読み手を説得するために，批判的に読まれることを想定して，効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができているか。 ・多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり，根拠や論拠の吟味を重ねたりして，主張を明確にすることができているか。 ・個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど，文章全体の論理の明晰さを確かめ，自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫しているか。	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。 ・人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めることができているか。 ・設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に，必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
・提出物の期限は、厳守してください。
・日ごろから新聞などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1自己を見つめて	【読む】探究する力（竹内薫） AI時代の人間の在り方について考える。	4	
	5	3社会に向かって	【書く】自分を客観的に見つめよう ライフチャート作成を通して自己分析を行う		
	6	2思考を深める	【読む】和の思想、間の文化（長谷川櫂） 具体例の妥当性を吟味する 主張に対する理由づけを考える		
	7	3社会に向かって	【書く】志望先への提出書類 どのような提出書類が必要かを知る。 提出書類を書くために何が必要かを知る。 志望理由を書くために必要な情報を集める。 【書く】自己推薦書を書こう 準備メモを活用して具体的内容をふくらませる。 構成メモを作り、自己推薦書を書いてみる。 お互いに書いてみた自己推薦書を評価し合う。		
第2学期	9	4視点を変えて	【読む】ロボットに心はあるか（石黒浩） 文章を比較して自分の考えを持つ 視点と意見の相関性について考える	9	
	10	5問いを深めて書く 6統計資料を活用する	【書く】テーマ型小論文 小論文の基本的な型を確認しつつ書く。 的確にテーマ把握をした上で書く。 【読む】課題文型小論文 課題文の出題意図について考える。 課題文の要約を行う。 課題文の内容に対して自らの意見を持つ。 自らの意見を論理的に表現する。		
	11	6現代を考える	【読む】「である」ことと「する」こと（丸山真男） 複数の文章を比較･分析しながら読み考えを深める。		
	12	5未来に目を向けて	【読む】人口減少社会の到来 社会の一員として広い視野で物事を考える。		
第3学期	1	5未来に目を向けて	【書く】人口減少社会の到来 社会問題に対して自分の意見を持つ。 社会問題に対して他者と意見を認め合う。		
	2				
	3				

【国語科　シラバス】

科目名	文学国語			使用教材	教科書	新編文学国語（大修館書店）
学　年	3	単位数	2		副教材	学習課題ノート
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てます。主として「思考力，判断力，表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する科目として，深く共感したり豊かに想像したりして，書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視します。

【学習方法と授業の進め方】

第Ⅰ部６単元・第Ⅱ部７単元の二部構成となっています。現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な教材や評価の定まっている基本的な教材がバランスよく配置され、小説、随想、評論、詩歌、古典など多様な時代・ジャンルの文章に触れることができます。その中で、課題に沿って文学的な文章を書く活動に段階的に取り組めたり、主要な古典作品に触れて我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深められたりできます。言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に着けます。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解しているか ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにできているか ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について，体系的に理解し使うことができるか。 ・文学的な文章を読むことを通して，我が国の言語文化の特質について理解を深められているか。	定期考査、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・文学的な文章を書くために，選んだ題材に応じて情報を収集，整理して，表現したいことを明確にし,読み手の関心が得られるよう，文章の構成や展開を工夫しているか。また,読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫しているか。 ・他の作品と比較するなどして，文体の特徴や効果について考察したり、文章の構成や展開，表現の仕方を踏まえ，解釈の多様性について考察したりできているか。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に，自分のものの見方，感じ方，考え方を深めることができているか。	定期考査、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開，描写の仕方などを的確に捉えようとしているか。 ・文学的な文章を読むことを通して，我が国の言語文化の特質について理解を深めようとしているか。 ・人間，社会，自然などに対するものの見方，感じ方，考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めようとしているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。
・漢字や語句の意味調べも、事前にできる限りやっておきましょう。
・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して、解決しましょう。
・提出物の期限は、厳守してください。
・日ごろから小説や詩歌、文学作品などを読む習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1 心を見つめる	【読む】クルミの小部屋（河野裕子） 筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取る。		
	5	古典の世界 4	【読む】桐壺（源氏物語） 若紫（源氏物語） 登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、読みを深める。	5	
	6	2 小説を読む 3 文化を感じる	【読む】待合室（内海隆一郎） 登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。 《文学の窓 5》 【読む】夏の月 高階秀爾 引用された作品を読み、解釈を深める。筆者の考える夏の月の良さについて考える。		
	7	1 心を見つめる	【読む】飛ぶことを知っている魂（梨木香歩） 具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。 文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。		
第2学期	9	4 短歌・俳句に親しむ	【読む】短歌・俳句 形式や表現に注意して、短歌・俳句を読み味わう。 【書く】十七音のパズル 川柳・俳句を作ろう		
	10	古典の世界 5	【読む】能登殿最期（平家物語） 能登殿の描かれ方を捉え、読みを深める。 【読む】四面楚歌（史記） 漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。		
	11	5 小説を味わう	【読む】山椒魚（井伏鱒二） 登場する生き物たちの性格や心理を読み取る。 《文学の窓 7》	14	
	12	6 名作を読む（二）	【読む】こころ（夏目漱石） 登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。		
第3学期	1	7 文学を生み出す	【読む】私たちの黄色（角田光代） さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。		
	2	古典の世界 5	【読む】四面楚歌（史記） 漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。		
	3	7 文学を生み出す	【書く】物語を紡ぐ ショートショートを書こう 発想を広げ、起承転結のパターンに従って書く。 さまざまな作品を参考にして、構成や展開を工夫する。	17	

【国語科　シラバス】

科目名	古典探究			使用教材	教科書	新編古典探究（東京書籍）
学　年	3	単位数	2		副教材	新編古典探究学習　課題ノート（東京書籍）
科・コース	普通科　進学コース文系					

【授業の概要】

我が国の古典としての「古文」･「漢文」を読む能力を養うと共に、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって、人生を豊かにする態度を育てようとする科目です。

【学習方法と授業の進め方】

・音読や朗読、暗誦などを行います。
・辞書を引き、古語や漢語の意味を調べ、覚えます。
・作品の時代背景や作者の経歴、有職故実について調べ、覚えます。
・重要語句や文法などの小テストを行います。
・教材を正確に深く読み込み、内容を的確に理解します。
・登場人物の心理や出来事などを正確に理解します。

【学習評価】

年５回行われる定期テストの成績に、提出物・授業態度・出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・歴史的仮名遣いの読みに慣れ、現代仮名遣いに直して書くことができるか。 ・我が国の古典文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしているか。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解しているか。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めているか。	定期テスト、授業中の小テスト等
②思考・判断・表現	・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしているか。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫しているか。 ・作品や文章に表われているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しているか。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しているか。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めているか。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっているか。	定期テスト、論述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等
③主体的に学習に取り組む態度	・進んで本文の内容や構成、展開を的確に捉え、登場人物の心の動きを読み取ろうとしているか。 ・進んで筆者のものの見方や感じ方を捉えて作品を読み味わおうとしているか。 ・進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしているか。 ・進んで文語のきまりや古典特有の表現、漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しをもって古典を学ぶ意義について考えを持とうとしているか。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒による自己評価や相互評価等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど
・授業に臨むに当たって、読みなどの予習は最低限やっておいて下さい。 ・事前にノート作りや意味調べもできる限りやっておきましょう。 ・古語辞典や副教材は必ず持参しましょう。 ・授業には積極的に参加し、分からなかった部分は質問して解決しましょう。 ・提出物の期限は厳守してください。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	古文編Ⅱ １随筆を味わう	【読むこと】『枕草子』清少納言 ・随筆の書かれている情景や出来事を的確に捉えよう。 ・随筆の内容を自分と関係づけ、ものの見方、感じ方、考え方を広げよう。	4	
	5	漢文編Ⅱ １小話を読む	【読むこと】 ・話の展開や登場人物の思いに触れ、内容のおもしろさを味わおう。 ・さまざまな人物の考え方を比較し、人間の生き方について考えよう。	１６	
	6	古文編Ⅱ ２歌物語を楽しむ	【読むこと】『伊勢物語』 ・作品中の和歌に注目しながら、登場人物の心情や行動を捉えよう。 ・古典の言葉を現代の言葉と比較し、その変遷について考察しよう。	4	
	7	漢文編Ⅱ ２古詩を味わう	【読むこと】 ・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、ものの見方や感じ方を豊かにしよう。 ・内容や表現の特色を理解し、古体詩を読み味わおう。	１１	
第2学期	9	古文編Ⅱ ３歴史物語を読む	【読むこと】『大鏡』 ・歴史物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉えよう。 ・関心を持った事柄について調べ、ものの見方、感じ方、考え方を深めよう。	4	
	10	漢文編Ⅱ ３史記を味わう	【読むこと】 ・人間関係や時代状況を踏まえて、登場人物の人柄や言動を捉えよう。 ・本文と同形の故事成語を探して、もととなった作品を読むとともに、現代の生活に当てはめて考えてみよう。	１６	
	11	古文編Ⅱ ５作り物語を味わう	【読むこと】『源氏物語』紫式部 ・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉えよう。 ・作り物語を多面的・多角的な視点から読み、考えを広げよう。	4	
	12	漢文編Ⅱ ４中国の思想	【読むこと】 ・古代中国のさまざまな思想に触れ、内容を的確に読み取ろう。 ・それぞれの思想を比較し、人間のあり方について考えてみよう。	１６	
第3学期	1	古文編Ⅱ ６俳諧に親しむ	【読むこと】「近世俳句抄」芭蕉　蕪村　一茶 ・俳句に詠み込まれた心情を捉えよう。 ・俳論を読み、論旨を的確に捉えよう。	4	
	2				
	3				

【地歴科　シラバス】

科目名	日本史演習			使用教材	教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）
学　年	3	単位数	3		副教材	詳説日本史図録（山川出版社）
科・コース	普通科　進学コース（文系）					

【授業の概要】

日本の歴史の展開に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める科目です。

【学習方法と授業の進め方】

近世前半期から現代までの範囲を時代順に学習していきます。１時間の授業で、およそ教科書２・３ページのペースで進むので、授業前にその範囲を熟読し読めない文字をなくしておいて下さい。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	日本の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえ学習します。また諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を理解し知識を深めます。	定期テストにおいて、知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題について問われます。例えば生徒が文章による説明をしたり、諸資料から情報をまとめる技術を用いたりする場面を設けるなどします。
②思考・判断・表現	日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察します。またグループワークを通して歴史にみられる課題を把握、考察し人前で説明したり、それらをもとに議論したりする力を養います。	定期テストだけではなく、レポートの作成、発表、グループでの話し合いなどの授業を通じて評価します。教科書の各章、各単元冒頭の「問い」や「深める」、また、「資料で深める歴史の世界」で設定されている課題などを有効に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を適切に評価します。
③主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史の展開に関わる諸事象についての課題を主体的に探究しようとする態度を養います。授業態度や課題への取り組みなどを通じて知識や自ら考え行動する力を育成します。	主体的に学習に取り組む態度の評価に際しては、授業に積極的に取り組む姿勢や学期ごとにノートを提出させ評価します。

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・３年生は進路に関わるので，受験を意識して授業に臨みましょう。
・図や資料から何が読み取れるか考え文章に落とし込めるようにしましょう。
・提出物は、提出期限を必ず守って下さい。
・授業に積極的に参加し発問に対して応答できるようにしましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	幕藩体制の展開	江戸幕府が長期にわたり日本に安定した時代をもたらしたことについて，織豊政権との類似と相違、国際情勢の変化や国内的要因など，様々な面から考察する。また，幕藩体制の成立や諸産業の発達をふまえ，社会のあり方や文化の動向をとらえる。		
	5	幕藩体制の動揺	幕府の諸改革の内容をおさえるとともに,訴訟や一揆・打ちこわしなどの内憂と外国勢力の圧力という外患により幕府が動揺したことについて，その背景や原因を理解する。		
	6	近世から近代へ	欧米列強の進出に対する認識や，新たな政治体制への模索について，幕府や諸藩，朝廷など多角的な視点で理解する。また動乱を経て成立した新政府に何が求められたのかを考察する。その際，それまで政治に参加することのなかった人々が政治参加や改革を求めるようになったことに留意する。		
	7	近代国家の成立	日本が明治政府による諸改革によって議会と憲法をもつ近代国家へと進展したことに注目し，それは国際環境や地域社会にどのような影響をもたらしたのかを考察する。		
第2学期	9	近代国家の展開	日本国内の政治・社会における近代化の一方，対外的には幕末に結んだ不平等条約の改正が大きな課題であった。このことを念頭に置き，条約改正の実現と日清・日露戦争を経て，日本の国際的な立場はどのように変容していったのかを考える。	16	
	10	近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦	日本国内でも産業革命による近代化が進んだことで，人々の暮らしや社会，文化がどのように変化したのかを考える。 恐慌や国際連盟の限界などのヴェルサイユ・ワシントン体制が崩壊した理由や，国民の支持が政党から軍部に移った背景に注目させるように留意し，なぜ日本が戦争への道をたどったのかを考える。	9 16	
	11	占領下の日本	アメリカの占領政策とその変化に留意し，どのようにして日本が独立の過程を歩んでいったのかを理解する。その際，日本の政治・経済・社会・文化がどのように変化したのかを考える。さらに，国民生活が民主化のもとにどのように再建されたかを考える。	16	
	12	高度成長の時代	55 年体制がどのようにして成立したかをおさえ，その後，政治や外交，経済などでどのような政策がとられていったのかを確認する。また，高度経済成長をもたらした国内外の要因を理解するとともに，国民生活に与えた影響についても考察する。	8 16	
第3学期	1	激動する世界と日本	日本が高度経済成長の終焉後も安定成長を続け，経済大国と呼ばれるようになったことについて，世界の動きとの関連を意識して理解する。また，その後のバブル経済とその崩壊，冷戦の終結とグローバル化など，国内外の様々な変化の中で，日本や世界はどのような課題に直面しているのかを考察する。	16 17	
	2	まとめ			
	3				

【地歴科　シラバス】

科目名	世界史探究			使用教材	教科書	『世界史探究』東京書籍
学　年	3	単位数	3		副教材	『アカデミア世界史』浜島書店
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。
・諸外国の国際事情や宗教事情を含めた授業で、文化の多様性や現代社会の特質を広い視野から考察し、国際理解や国際感覚を身につけるようにします。

【学習方法と授業の進め方】

・基本的には教科書を中心に学習を進めます。必要に応じて史料集、プリント、動画などを使用します。また、配布された chromebook も使うことがあるので準備してください。

【学習評価】

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの観点から総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているか。 ・諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけられたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
②思考・判断・表現	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多方面・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることが出来きたか。 ・考察、抗争したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができたか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
③主体的に学習に取り組む態度	・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしていたか。 ・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしたか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・討論や発表 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・世界史は、個々の国や地域について時代順に追っていく「縦」と、世界全体の動きや出来事を同時代ごとに見ていく「横」、両方の視点が必要になります。したがって、教科書に載っている人物名や年号、事件などといった用語を覚えるということではなく、「歴史の流れ」や「原因と結果」をつかむようにして下さい。単に歴史的事項を暗記するのではなく、当時の社会状況と結びつけて捉えることが重要です。諸資料を活用し多面的・多角的に考察しましょう。
・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第１４章　国民国家と近代社会の形成	１８世紀半ばから１９世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広まったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	9	
	5	第１５章　世界市場の形成とアジア諸国の変容	産業革命で先行したイギリスが１９世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。	8	
	6	第１６章　アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	アジア諸国が危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革を進めたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	1	
	7	第１７章　第一次世界大戦の展開と諸地域の変容	第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」と呼ばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味を持ったのかなどについて理解する。	16	
第2学期	9	第１８章　国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、その中で台頭したファシズム国家によって引き起こされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	16	
	10	第１９章　第二次世界大戦と戦後の東アジア	第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。	16	
	11	第２０章　冷戦の世界化と国際制度	冷戦の下で､世界平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がる中で、それぞれの地域でどのような意味を持ったのかについて理解する。	10	
	12	第２１章　冷戦の変容・終結と経済のグローバル化	冷戦の変容に伴いアメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後に生じた経済のグローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのように変えていったのかを理解する。	10	
第3学期	1	第２２章　２１世紀の地球的課題と人類社会	２１世紀に入り､地球上ではどのような問題が生じ、人類社会はどのような課題に直面し、それを克服しようとしているのかについて､これまでの歴史をふまえ、その課題に取り組む当事者として考える。	1 2 13	
	2				
	3				

【公民科　シラバス】

科目名	倫理			使用教材	教科書	『高等学校新倫理』（清水書院）
学　年	3	単位数	2		副教材	最新図説『倫理』（浜島書店） 『高等学校新倫理ワークノート』（清水書院）
科・コース	普通科　進学コース（文系）					

【授業の概要】

・「公共」の学習で身につけた資質・能力を基に、人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う科目です。具体的には思想や文化、現代社会の特質について学びます。
・広い視野に立ち、人間尊重の精神と清明に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成します。

【学習方法と授業の進め方】

・講義形式の授業で青年期の課題や、古今東西の哲学者・思想家、宗教等の思想を具体的に学習します。原典資料の読み取り等を通して倫理的な見方や考え方を身に付け、読解力・思考力を培うことも重視するため。ディスカッションやレポートの提出を求めることもあります。内容の大部分を占める「思想」については哲学や宗教など古くから人類が関わってきた事柄をもとにして授業を展開していき、それらから普遍的な人間性についての理解を深めていきます。

【学習評価】

定期考査及び下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・古今東西の幅広い知的知識を通して。現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているか。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・原典資料や芸術作品などからの読み取り ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
②思考・判断・表現	・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができたか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・・原典資料や芸術作品などからの読み取り ・ワークや問題集 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況
③主体的に学習に取り組む態度	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようしたりしているか。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・討論や発表 ・課題プリントへの取り組み ・ノートの作成状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・人間・存在・自己・人勢・世界などについて考えるという行為が重要な授業なので、ただ用語や人名を覚えるのではなく、自由な発想や旺盛な好奇心で授業に参加して下さい。資料を読み取る力も求められるので、先哲と向き合いながら自己や社会の課題について思索しましょう。教師の発問に対する積極的な発言を求めます。
・ノート作りは、単に板書事項を書き写すのではなく、話の内容もメモを取る習慣を身につけましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	**現代を生きる自己の課題** 序章 第１章　個性的な主体としての自己 第２章　心と行動をめぐる探究	○人間とは何か １　心の機能と個性 ２　パーソナリティの形成と「私」 １　人間の活動を支える心 ２　認知のしくみ ３　生涯にわたる発達		
	5	**人間としての自覚** 第１章　哲学の起源：ギリシア思想 第２章　唯一神の宗教：キリスト教	１　神話から哲学へ～自然哲学者たち ２　知と徳をめぐる問い～ソクラテス ３　理想主義的なあり方～プラトン ４　現実主義的なあり方～アリストテレス ５　幸福をめぐる問い～ヘレニズムの思想 第１節　愛の教え～キリスト教 １　ユダヤ教　２　イエスの思想 ３　世界宗教への展開	10	
	6	イスラーム教 第３章　東洋思想の源流：仏教	第２節　戒律と平等の教え～イスラーム教 第１節　知恵と慈悲の教え～仏教 １　バラモン教　２　仏陀の思想 ３　仏陀とその後の展開	10	
	7	儒教	第２節　仁と礼の教え～儒教 １　儒家の教え　２　儒教の展開　３　道家の思想		
第2学期	9	**現代をかたちづくる倫理** 第１章　近代の成立 第２章　世界と人間をめぐる探究	第１節　人間の尊厳 １　ルネサンスとヒューマニズム ２　宗教改革と人間の内面 ３　人間の偉大と限界 第２節　真理の認識～経験論と合理論 １　近代科学の思考法 ２　事実と経験の尊重～ベーコン	4 5	
	10		３　理性の光～デカルト 第３節　民主社会と倫理 １　社会契約説と啓蒙思想 ２　人格の尊厳と自由～カント ３　自己実現と自由～ヘーゲル		
	11		４　幸福と功利 ５　創造的知性と幸福 第４節　現代社会と個人 １　資本主義社会への批判 ２　人間存在の地平～実存主義		
	12		３　世界と存在そのものへ～減少額 ４　公共性と正義 ５　社会参加と他者への奉仕 第５節　近代の世界観・人間観の問いなおし １　理性主義への反省　２　言語論的転回 ３　科学館の転換		
第3学期	1	**現代における諸課題の探究** 第１章　自然や科学技術をめぐる諸課題 第２章　社会や文化に関わる諸課題	１　環境と倫理 ２　生命と倫理 ３　科学技術の発展とその課題 １　文化や宗教の多様性と倫理 ２　国際平和と人類の福祉	5,8, 16, 13, 14, 15	
	2	まとめ	まとめ		
	3				

【公民科　シラバス】

科目名	公民演習			使用教材	教科書	高等学校公共　（清水書院：１年次に使用）
学　年	3	単位数	2		副教材	高等学校ワークノート（　同上　）
科・コース	普通科　進学コース（５科目選択・解体）					

【授業の概要】

・基本的には、１年次で学習した「公共」で、細かく触れることができなかった倫理分野・経済分野・国際関係等を中心に、学習を展開
・必要に応じ、個人ワークやグループワーク等も取り入れる

【学習方法と授業の進め方】

・１年次に使用した「公共」の教科書およびワークノートを活用し、授業を展開。

【学習評価】

・基本的には、教科書及び教科書準拠のワークノート、必要に応じて配布・使用したプリント等を出題範囲とし、定期試験を実施。観点１および観点２を評価
・観点３については、ワーク等の提出状況や出欠状況を加味し、授業への取り組みを評価

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。 資料等の読み取りや論述や問題を解くために必要となる基礎的な知識や情報を習得し、活用できる技能を身につけさせる	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・ワークうのーと ・プリント等への取り組み ・ノートの作成状況
②思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用し、事実を基に多角的に考察し、公正に判断する力等を養い、的確な判断や適切な表現ができるような資質を身につけさせる。	・定期考査の思考・判断力を問う問題（記述・論述、資料読解等） ・ワークノート ・プリント等への取り組み ・ノートの作成状況
③主体的に学習に取り組む態度	多面的・多角的な考察や深い理解を通して養われる現代社会に生きる人間のあり方や生き方について自覚し、国民主権を担う公民とし、平和と繁栄を図ること、地域社会から国際社会、グローバル化の時代に対応できる主体的な資質を身につけさせる。	・学習活動への参加状況 ・作業等への取り組み方 ・発言や討論等の状況 ・ワークノート等の取り組み ・ノート作成状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・日頃から、ニュースや新聞等のマスメディアから発信される情報に積極的にアクセスし、自らの意見や考えを的確表明できる取り組む。
・何事にも興味関心をもつよう心がける。
・とにかく好奇心をもつ。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	国際政治の仕組みと役割	国際政治の成り立ち 国際連合の設立とその役割 冷戦とその終焉	10 16 17	
	5		軍縮と安全保障 リージョナリズム グローバル化と国家		
	6	国際政治の現状と課題	現代の紛争 多文化・多民族化社会に向けて 移民と難民 日本の戦後外交と課題		
	7	私たちと経済活動	私たちと経済 仕事と社会 国民経済と GDP	1 8 16 17	
第2学期	9	経済社会の仕組みと役割	社会の仕組みとしての市場 市場の機能 市場の限界	8 16	
	10		金融とそのはたらき 財政とそのはたらき 現代の企業		
	11		労働問題 社会保障の役割 少子高齢化と財政の維持可能性	1 8 16 10	
	12	持続可能な社会をつくる	人間は人工知能とどのように共存すればよいか 何のために環境を守るのか 食料と水資源の配分をどう考えるか	2 9	
第3学期	1		少子高齢化と社会保障の問題を考える 地域とつながり、地域に生きる、地域社会との接点	12 13	
	2	まとめ			
	3				

【数学科　シラバス】

科目名	数学Ⅱ			使用教材	教科書	高等学校数学Ⅱ（数研出版）
学　年	3	単位数	Ⅱ		副教材	Study-Up 数学Ⅱ（数研出版）
科・コース	普通科　進学コース　文系					

【授業の概要】

数学Ⅱは高校で学ぶ数学の中心となる科目です。したがって以下のような目標とします。
指数関数、対数関数、微分法、積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。

【学習方法と授業の進め方】

1．授業は教科書を中心として、説明・演習の順に進めていきますので、説明が始まったらよく話を聞くようにしてください。
2．計算力をつけるために、教科書や問題集の問題をしっかり解いていきましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

【予習】　教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いてみてください。
【授業】　予習でわからなかったところを解決するつもりで臨んでください。演習の答え合わせはどこをなぜ間違えたかを考えながら行ってください。
【復習】　自分の手で何度も解きなおします。宿題以外に問題集も各自解き進めておいてください。

※　ノートは途中の計算もきちんと記入する！　　※　わからないところはそのままにせずに必ず質問を！

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	・指数・対数関数 指数関数	指数の拡張		
	5		指数関数		
	6	対数関数	対数とその性質		
	7		対数関数　常用対数		
第2学期	9	・微分と積分	微分係数 導関数とその計算 接線の方程式		
	10	微分係数と導関数	関数の増減と極大・極小		
	11	関数の値の変化	関数の増減・グラフの応用		
	12	積分法	不定積分 定積分		
第3学期	1		定積分と面積		
	2				
	3				

【数学科　シラバス】

科目名	数学Ⅲ			使用教材	教科書	高等学校数学Ⅲ（数研出版）
学　年	3	単位数	3		副教材	Study-Up 数学Ⅲ（数研出版）
科・コース	普通科　進学コース　理系					

【授業の概要】

数学Ⅲは高校で学ぶ数学の中でもより発展的な科目です。したがって以下のような目標とします。
関数、極限、微分法、積分法の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。

【学習方法と授業の進め方】

1．授業は教科書を中心として、説明・演習の順に進めていきますので、説明が始まったらよく話を聞くようにしてください。
2．計算力をつけるために、教科書や問題集の問題をしっかり解いていきましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

【予習】　教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いてみてください。
【授業】　予習でわからなかったところを解決するつもりで臨んでください。演習の答え合わせはどこをなぜ間違えたかを考えながら行ってください。
【復習】　自分の手で何度も解きなおします。宿題以外に問題集も各自解き進めておいてください。

※　ノートは途中の計算もきちんと記入する！　　※　わからないところはそのままにせずに必ず質問を！

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ⅲ＞ ・関数	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数	4	
	5	・極限 数列の極限	数列の極限 無限等比数列 無限級数		
	6	関数の極限	関数の極限　三角関数の極限 関数の連続性		
	7	・微分法	微分係数と導関数　導関数の計算		
第2学期	9	・微分法の応用	いろいろな関数の導関数　第 n 次導関数 関数のいろいろな表し方と導関数 接線と法線　平均値の定理		
	10	導関数の応用 速度と近似式	関数の値の変化　関数の最大と最小 関数のグラフ　方程式，不等式への応用 速度と加速度　近似式		
	11	・積分法 不定積分 定積分	不定積分とその基本性質　置換積分法 部分積分法　いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質　定積分の置換積分法		
	12	・積分法の応用	定積分の部分積分法 面積　体積		
第3学期	1		曲線の長さ　速度と道のり		
	2				
	3				

【数学科　シラバス】

科目名	数学Ｃ			使用教材	教科書	高等学校数学Ｃ（数研出版）
学　年	3	単位数	2		副教材	Study-Up 数学Ｃ（数研出版）
科・コース	普通科　進学コース　理系					

【授業の概要】

数学Ｃは高校で学ぶ数学の中でもより発展的な科目です。したがって以下のような目標とします。
ベクトル、複素数平面，２次曲線の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用できるようにする。

【学習方法と授業の進め方】

１．授業は教科書を中心として、説明・演習の順に進めていきますので、説明が始まったらよく話を聞くようにしてください。
２．計算力をつけるために、教科書や問題集の問題をしっかり解いていきましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】

【予習】　教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いてみてください。
【授業】　予習でわからなかったところを解決するつもりで臨んでください。演習の答え合わせはどこをなぜ間違えたかを考えながら行ってください。
【復習】　自分の手で何度も解きなおします。宿題以外に問題集も各自解き進めておいてください。

※　ノートは途中の計算もきちんと記入する！　　※　わからないところはそのままにせずに必ず質問を！

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ｃ＞ ・平面上のベクトル	平面上のベクトル ベクトルの演算	4	
	5	平面上のベクトルと その演算	ベクトルの成分 ベクトルの内積		
	6	ベクトルと平面図形 ・空間ベクトル	ベクトル方程式 空間の座標 空間のベクトル		
	7		ベクトルの成分		
第2学期	9		ベクトルの内積　位置ベクトル ベクトルの図形　座標空間における図形		
	10	・複素数平面	複素数平面　複素数の極形式と乗法，除法 ド・モアブルの定理　複素数と図形		
	11	・式と曲線 ２次曲線	放物線　楕円　双曲線 ２次曲線の平行移動　２次曲線と直線		
	12		２次曲線の性質 曲線の媒介変数表示		
第3学期	1	・媒介変数表示と極座標	極座標と極方程式 曲線の長さ　速度と道のり		
	2				
	3				

【数学科　シラバス】

科目名	数学演習			使用教材	教科書	高等学校数学Ⅰ，A(数研出版)
学　年	3	単位数	2		副教材	マスターノート数学Ⅰ＋A（中部）
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

進学コースの数学演習では、演習問題を通して大学入試に対応できる力を育成します。数学Ⅰ・Aのすべての内容について復習した後で、共通テスト対策を含めた大学入試対策を行っていきます。

【学習方法と授業の進め方】

授業では教科書、問題集、その他必要に応じてプリントを使用します。理解していることを前提に進むので、必ず教科書の該当範囲を予習しておいてください。また、問題演習やプリント学習では教科書の範囲にとどまらず、入試問題や全国模試の問題を扱うので、そのレベルに照準を合わせるように常に意識して学習しましょう。

【学習評価】

年５回行われる定期考査の成績に宿題などの家庭学習、授業態度、出欠席の回数などを平常点として加え総合的に評価を行います。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	数量関係や図形などの基本的な概念や法則を理解し、事象を数学的に解釈したりする技能を身につける。	定期テスト 小テスト プリント など
②思考・判断・表現	数学を活用し事象を論理的に考察することで、法則や図形などの性質を発見できる。 数学的な表現を用いて事象を簡潔･的確に表す力を養う。	定期テスト 小テスト プリント グループ学習等の発表 レポート など
③主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動の楽しさや数学の良さを実感し、数学の知識を生活や学習に活かそうとする態度、問題解決能力を養う。	授業態度 課題提出 など

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

教科書（授業用）のノートと、問題集（演習用）のノートを２冊準備してください。

【予習】　事前に教科書を読んで、例題を参考に自分で問題を解いておく。
【授業】　予習でわからなかったところを授業中に解決するつもりで臨む。
【復習】　自分の手で何度も解きなおす。宿題以外に問題集を各自解き進めておく。

【ノートの取り方】　後で見たときにどんな学習をしたかわかるような取り方をする。
予習のときにスペースを多めにとり、あとで注意事項を書き込めるようにするとよい。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	＜数学Ⅰ・A＞ ・数と式 式の計算	多項式　多項式の加法減法および乗法　因数分解 実数　根号を含む式の計算　一次不等式	4	
	5	・集合と命題 ・２次関数 ２次関数のグラフ	集合　命題と条件　命題と証明 関数とグラフ　２次関数のグラフ ２次関数の最大最小　２次関数の決定 ２次方程式　グラフと２次方程式		
	6	２次方程式と２次不等式 ・図形と計量 三角比	グラフと２次不等式 三角比　三角比の相互関係　三角比の拡張 正弦定理　余弦定理　三角形の面積　図形の応用		
	7	・データの分析	データの整理　データの代表値 データの散らばりと四分位範囲　分散と標準偏差 ２つの変数の間の関係　仮説検定の考え方		
第2学期	9	・場合の数と確率 場合の数 確率	集合の要素の個数　場合の数 順列　円順列・重複順列　組み合わせ 事象と確率　確率の基本性質　独立な試行の確率		
	10	・図形の性質 平面図形 空間図形	三角形の辺の比　三角形の外心、内心、重心 チェバの定理、メネラウスの定理 円に内接する四角形　円と直線　方べきの定理		
	11	・数学と人間の活動	倍数と約数　素数と素因数分解 最大公約数、最小公倍数　整数の割り算 ユークリッドの互除法　一次不定方程式		
	12	入試対策演習	入試対策演習		
第3学期	1	入試対策演習	入試対策演習		
	2				
	3				

【理科　シラバス】

科目名	物理			使用教材	教科書	高等学校改訂物理（第一学習）
学　年	3	単位数	3		副教材	フォローアップドリル物理（数研出版）
科・コース	普通科　進学コース理系					

【授業の概要】

力と運動や電磁気、分子の運動に見られる法則を体系的に理解する科目です。目に見えない粒子・波や、マクロな物質の挙動と、それにより起こる物理現象を探ります。

【学習方法と授業の進め方】

大学入試で合格点を取れるレベルを目指します。入試で合格点が取れるようになるには、本文を前後の法則の関連性を重視して体系的に理解することと、しっかりとした演習量が必要です。反復反芻により難解と思われる問題を解くイメージを自力で作れるようになります。暗記型勉強は通じないので根気ある学習姿勢を身につけて努力しましょう。

まずは基本的な公式の理解と物理的な考え方を身につけることを目標に授業を進めます。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・自然現象を定量的に考察するため，物理量（概念）を定義し，利用することが理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，物理現象を論理的に分析し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・予習　　教科書を読み、どんなことを学ぶのか大雑把に把握する。物理基礎のときと同様です。
・授業　　授業で学ぶ知識には構造があるので、暗記ではなく関連性を持たせて理解しましょう。
・復習　　わからないことは絶対にその日のうちに解決しましょう。
・演習　　教科書の問い・例題は基本、章末問題が入試レベル。自宅で問題集を使って実力を定着させよう。
・ノート　ノートは第２の記憶。早く見やすく書きましょう。板書以外の口頭説明も必要に応じてメモ。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	・平面運動　剛体	ベクトル、相対運動、運動方程式、放物運動、斜法投射終端速度、力のモーメント、剛体のつり合い、偶力、重心		
	5 6 7	・運動量　円運動　引力	運動量、運動量の変化＝力積、運動量保存、反発係数、力学的エネルギー 等速円運動、慣性力,向心力と遠心力、単振動、単振り子の実験		
第2学期	9		万有引力、位置エネルギー、第一宇宙速度、第二宇宙速度		
	10	・ 熱　気体　波	圧力、ボイル・シャルルの法則、状態方程式、ボルツマン定数		
	11		熱力学第１法則、第２法則、定積変化、定圧変化、断熱変化、等温変化		
	12	・音　光　物理基礎演習	正弦波、重ねあわせの原理、定常波、干渉、反射の法則、屈折の法則		
第3学期	1		音速と温度、音の反射・屈折・回折・干渉、ドップラー効果、うなり		
	2 3		可視光、光の反射・屈折・回折、全反射と臨界角、光ファイバー 鏡とレンズの公式、ヤングの実験、薄膜干渉、分散、偏光、くさび干渉		

【理科　シラバス】

科目名	化学			使用教材	教科書	新編　化学（数研出版）
学　年	3	単位数	2		副教材	フォローアップドリル化学（数研出版）
科・コース	普通科　進学コース　理系					

【授業の概要】

化学基礎で学んだ身の回りの物質の性質をさらに詳しく学び、身近で起こる化学変化と結びつけ、生命と生活に関係する物質について具体的に学習する科目です。(化学基礎の続き)

【学習方法と授業の進め方】

① 授業は、教科書、図表、プリントなどを使用して進めていきます。
② 授業の形態は生徒実験、教室での授業、実験講義の３つの形式があります。
場所や授業形式によらず、そのときの学習の流れ（今、何についてどんな順序で学習しているのか）を意識し、自主的に、かつ積極的に授業に参加するようにしましょう。
③ 実験では、どんな内容を理解するためのものなのかを考えながら取り組みましょう。実験器具の使い方や器具の洗浄、後かたづけにも気を配りましょう。実験室をきれいな状態で使用できるようにしましょう。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな化学反応を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，化学反応を論理的に分析し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象や身近にある化学的な事象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・２学年の化学からの続きの内容です。化学基礎内容をしっかりと理解していないと、化学の授業内容を理解することが困難になります。化学式、化学反応式、物質量計算等の基本事項は確実に定着させましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第２編　物質の変化	第1章　化学反応とエネルギー 第2章　電池と電気分解		
	5		第3章　化学反応の速さとしくみ		
	6		第4章　化学平衡		
	7	第３編　無機物質	第1章　非金属元素		
第2学期	9		第2章　金属元素（I）-典型元素- 第3章　金属元素（II）-遷移元素-		
	10	第４編　有機化合物	第1章　有機化合物の分類と分析 第2章　脂肪族炭化水素		
	11		第3章　アルコールと関連化合物 第4章　芳香族化合物		
	12	第５編　高分子化合物	第1章　高分子化合物の性質 第2章　天然高分子化合物		
第3学期	1		第3章　合成高分子化合物 終章　化学とともに歩む		
	2	演習問題			
	3	演習問題			

【理科　シラバス】

科目名	生物			使用教材	教科書	生物（東京書籍）
学　年	3	単位数	4		副教材	ニューアチーブ生物（東京書籍）
科・コース	普通科　進学コース　理系					

【授業の概要】

生物基礎との関連を図りながら，生物や生物現象をさらに広範囲に取扱い，生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ，科学的な自然観を育てる科目です。

【学習方法と授業の進め方】

① 授業は、担当者作成のプリント、教科書、図表などを使用して進める。
② 板書事項をノートやプリントに記録する。
③ 実験や観察を行い、科学的技能や思考する力を高める。
④ 副教材の問題集を積極的に進めておく。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・観察や実験を通して，さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・観察や実験の技能を修得できたか。 ・観察や実験を通して科学的に探究する方法を習得できたか。	・定期考査の知識、理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・さまざまな生物現象を論理的に考察・分析し，その本質を原理や法則から説明できるか。 ・観察や実験を通して，生物現象を論理的に思考し，問題を解決し，実験結果(事実)に基づいて科学的に判断できるか。 ・課題や実験のレポートにおいて，的確に表現する方法を習得しているか。	・定期考査の思考・応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然現象に関心をもち，科学的な見方をしているか。 ・授業，実験に意欲的に参加し，論理的に探究しようとする態度が見えるか。 ・学習内容について振り返り，日常生活や社会に生かそうとしているか。	・学習活動への参加のしかたや態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

① 予習を必ず行うようにしてください。学習内容が多く，授業中にすべてを扱うことができません。まずは，わからないとこ
　ろをしっかりと把握することが大切です。
② 問題集を積極的に解いてください。授業で扱った内容はもちろん，扱わなかったものを自主的に解くようにしてください。
③ 授業は板書をノートに書きとることだけに集中しないで，先生が話している内容で必要だと思った内容はノートにメモする
　ようにしましょう。ノートは十分余裕のある，わかりやすいものを作りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第１編　生命現象と物質 １章　生体物質と細胞 １節　生物の体を作る細胞	生体物質と細胞，生命現象を支えるタンパク質ついて学ぶ。 代謝とエネルギー		
	5	２章　タンパク質の構造と酵素 １節　タンパク質の構造 ２節　酵素としてはたらくタンパク質	タンパク質の構造と酵素の特徴について学ぶ。 基質特異性・最適温度・最適 pH・変性と失活について学ぶ。 受動輸送・能動輸送・代謝とエネルギーについて学ぶ。		
	6	３章　細胞間の相互作用とタンパク質 ４章 代謝とエネルギー エネルギー変化と化学反応・呼吸・ 酵素と解糖・光合成・化学合成・窒素同化	細胞間の相互作用とタンパク質・輸送や情報伝達にかかわるタンパク質について学ぶ。 代謝・解答系とクエン酸回路・アルコール発酵・光化学系Ⅰ・Ⅱの電子伝達について学ぶ。 炭酸同化・植物の窒素同化について学ぶ。		
	7	２編　遺伝子のはたらき １章 DNA の構造と複製 ２章　遺伝情報の発現 ３章　遺伝子の発現調節 ４章　バイオテクノロジー	DNA の構造・DNA の複製を理解し、塩基の A・T・G・C の相補性と、複製やセントラルドグマについて学ぶ。 塩基の挿入・欠失・終止コドン・転写・翻訳について学ぶ。 調節遺伝子の存在と、オペレーターとプロモーターについて学ぶ。 バイオテクノロジーとはどのような技術であるのかを学ぶ。		
第2学期	9	３編　生殖と発生 １章　生物の有性生殖 ２章　動物の発生 ３章　動物の発生の仕組み ４章　植物の発生	有性生殖の接合/接合子より、遺伝情報について学ぶ。 染色体と遺伝子・減数分裂・遺伝子多様性について学ぶ。 減数分裂でもたらされる遺伝的多様性・遺伝子の連鎖と組換えについて学ぶ。 ウニの先体反応や発生の過程について学ぶ。ウニの卵割で、変態の過程について学ぶ。 動物の発生の仕組みを比較しながら、被子植物の生殖と発生・分化について、その特徴や仕組みを学ぶ。		
	10	４編　生物の環境応答 １章　動物の刺激の需要と反応 １節　刺激の受容から反応の情報絵の流れ	光や音などの刺激を手掛かりにして、獲物や外敵の存在などの情報を得ていることを学ぶ。 目・耳・鼻などの受容器で受容し、中枢神経で情報を統合処理し、筋肉や分泌腺などの効果器に伝達することを学ぶ。 ニューロンについて学ぶ。		
	11	２節　神経系を構成する細胞 ３節　ニューロンの興奮 ４節　興奮の伝達 ５節　刺激の受容と感覚 ６節　視覚器	ニュ―ロンが活動電位を発生することを興奮といい、活動電位と興奮の伝達について学ぶ。 受容器には、刺激の種類ごとに決まった神経細胞があり、閾値以上の強さの刺激を受容すると、感覚ニューロンに興奮を伝えることを学ぶ。 光刺激は、網膜にある２種類の視細胞によって、色の明暗の情報として受容され、視神経によって大脳の視覚野に情報が伝わり、視覚として 認識されることを学ぶ。筋収縮(アクチンフィラメント・ミオシンフィラメント)のすべり運動について学ぶ。		
	12	７節　聴覚期 ８節　聴覚期とその他の受容器 ９節　中枢神経系	聴覚や平衡感覚・味覚・嗅覚について学ぶ。脳と脊髄からなる中枢神経系について学ぶ。動物の行動が起こる仕組み(メカニズム・発達・ 機能・進化の４つの視点)について学習する。植物の一		

		での情報処理 ２章　動物の行動	生をたどりながら、植物の環境応答とその仕組みについて学習する。 植物の環境要因による発芽の調節･気孔の開閉の調節･花芽形成の調節・老化と落葉・ストレスに対する応答について学習する。 生体と環境・生物の進化と系統について学習する。		
第3学期	1	入試問題演習	共通テスト，国公立大学，私立大学の過去問題演習		
	2				
	3				

【理科　シラバス】

科目名	理科演習			使用教材	教科書	なし
学　年	3	単位数	2		副教材	プリント集
科・コース	進学コース　文系					

【授業の概要】

主に生物基礎の基礎科目について演習を行う。大学入試共通テスト対策を中心に行う。

【学習方法と授業の進め方】

① 授業は、担当者作成のプリント、教科書を使用して進めていきます。
② 板書事項をノートの写し取るだけでは定着しません。先生の説明を自分でかみ砕き反芻して理解に努めてましょう。
③ 授業内容の復習や問題演習などしっかり取り組むこと。復習が最重要です。
④ 新聞やテレビなどの科学的な話題に目を向け、興味や関心を持つように心がけよう。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に判断する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象についての観察，実験などを行うことを通して，生物や生物現象に関する基本的な概念や原理･法則を理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	･定期考査の知識･理解に関する問題 ・課題への取り組み
②思考・判断・表現	・自然科学を対象に，探究の過程を通して，問題を見いだすための観察，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，調査，データの分析・解釈，推論などの探究の方法が習得できている。また，報告書を作成したり発表したりして，科学的に探究する力が育まれている。	･定期考査の思考･応用問題（資料読解・論述問題） ・課題への取り組み ・観察・実験等
③主体的に学習に取り組む態度	・自然科学について興味・関心を持ち、調べたり探究活動に臨み理解しようとする態度を持っている。 ・学習内容について振り返り、日常生活や社会に活かそうとしている。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・観察・実験・発表等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・１年生に使用した生物基礎の教科書やワークを用いて今までの総復習を行いましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	序章　探究のプロセス 顕微鏡の使い方と顕微鏡観察 第１章　生物の特徴 1．生物の多様性と共通性 生物の多様性，生物の共通性とその由来，生物に共通する構造－細胞	探究のプロセスや手法を理解する。顕微鏡の使い方を習得する。 多様な生物にも共通性があることを理解する。多様な生物に共通性が見られる理由について理解する.	14 15	
	5	2．エネルギーと代謝 生命活動とエネルギー 3．　呼吸と光合成 呼吸、光合成、エネルギーの流れ、酵素の性質	生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。生命活動には ATP のエネルギーが利用されていることを理解する。 呼吸や光合成では ATP が合成されていることを理解する。生体内の化学反応が，酵素の働きによって振興していることを理解する。	14 15	
	6	第２章　遺伝子とそのはたらき 1．遺伝情報と DNA 遺伝情報を含む物質－DNA，DNA の構造	DNA の構造を理解する。DNA の塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。	14 15	
	7	2．遺伝情報の複製と分配 細胞周期と DNA，遺伝情報の複製，遺伝情報の分配 3．遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質，タンパク質の合成，細胞の分化と遺伝情報，遺伝子とゲノム	DNA が複製されるしくみを理解する。体細胞分裂の過程で DNA が複製され，分配されることを理解する。 DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。からだを構成する細胞で遺伝子がどのように発現しているかを理解する。		
第2学期	9	第３章　ヒトの体内環境維持 1．体内での情報伝達と調節 体内での情報伝達，神経系による情報の伝達と調節，内分泌系による情報の伝達と調節	体内での情報伝達が，からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系が，からだの状態を調節するしくみを理解する。	3	
	10	2．体内環境の維持のしくみ 体内環境の維持，血糖濃度の調節のしくみ，血液の循環を維持するしくみ	自律神経系と内分泌系のはたらきによって，体内環境が維持されていることを理解する。	3	
	11	3．免疫のはたらき からだを守るしくみ，自然免疫，適応免疫，免疫と健康	私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。免疫と，病気や治療法との関係について理解する。	3	
	12	第４章　生物の多様性と生態系 1．植生と遷移 植生とその成りたち，植生の遷移，植生の再生	いろいろな植生とその特徴を理解する。植生の遷移の過程と，遷移が進行する要因を理解する。	14 15	
第3学期	1	2．植生の分布とバイオーム 植生とバイオーム，世界のバイオーム，日本のバイオーム	世界各地には，多様なバイオームが成立していることを理解する。日本に分布するバイオームについて理解する。	14 15	
	2	3．生態系と生物の多様性 生態系の成りたち，生態系における種多様性，生態系における生物どうしのつながり	生態系がどのように構成されているのかを理解する。生態系の中で，多様な生物がどのように関係して，存在しているのかを理解する。	14 15	
	3	4．生態系のバランスと保全 生態系のバランス，人間生活と生態系，生態系の保全	生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。人間生活が生態系に与える影響と，生態系の保全の重要性を理解する。	14 15	

【外国語科　シラバス】

科目名	英語コミュニケーションⅢ			使用教材	教科書	PANORAMA 2・3（大修館）
学　年	3	単位数	4		副教材	PANORAMA 2 予習・復習ノート PANORAMA 3 学習ノート
科・コース	普通科 進学コース　理系・文系コース					

【授業の概要】

聞くこと」・「読むこと」・「やり取り」・「発表」・「書くこと」の 5 領域（スキル）の力を伸ばす活動を行いながら
テキスト本文の理解を深め各レッスンの目標（Target Task）を達成できるようにします。
学習したことを踏まえ自分の考えや意見を英語で表現し,それを説明・発表する活動を通して英語で様々な表現ができるようになり学習内容の理解をより深められることを目標とします。

【学習方法と授業の進め方】

授業は新出単語・熟語の意味を確認し,文法項目の説明を加えながら内容を理解し要点をつかめるように英文を読み進めていきます。リスニングでの内容理解の確認や自分の考えや意見の英作文や発表,ペアワークやグループワークなどの活動も行います。また予習・復習ノートを使って各パートの予習や復習を各自で取り組んでもらい,さらに各レッスンのさまざまな形式のまとめ問題を解いて内容理解の確認をします。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・各レッスンの文法項目を用いた文の意味や働きを理解し,文章の内容を理解する技能を身に付けている。 ・各レッスンの文法項目を用いた文の構造を理解し内容に関する話題について情報や考え、気持ちなどを適切に話して伝え合ったり伝えたりする技能を身に付けている。 ・各レッスンの文法項目を用いた文の構造を理解し,内容に関する話題について情報や考え、気持ちなどを適切に書いて伝える技能を身に付けている。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題
②思考・判断・表現	・聞いた内容について書いてまとめるために,各内容について話された文章の概要や要点を捉えている。 ・読んだ内容について書いてまとめるために,各内容について書かれた文章の概要や要点を捉えている。 ・クラスメートにわかるように,内容に関する話題について基本的な語句や文を用いて情報や考え,気持ちなどを論理性に注意して話して伝えあったり伝えたりしている。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題 ・自分の意見や考えを表現している
③主体的に学習に取り組む態度	・聞いた内容について書いてまとめるために,各内容について話された文章の概要や要点を捉えようとしている。 ・読んだ内容について書いてまとめるために,各内容について書かれた文章の概要や要点を捉えようとしている。 ・クラスメートにわかるように,内容に関する話題について基本的な語句や文を用いて情報や考え,気持ちなどを論理性に注意して話して伝えあったり伝えたりしようとしている。	・授業中のペアワークやグループワークにおける発言や参加意欲・態度 ・ワークブック等の課題の提出状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・事前に各パートの新出単語や熟語の意味を調べておきましょう。
・英文の内容理解に努めましょう。
・授業中のペアワークやグループワークに積極的に参加しましょう。また発表は自信を持って行いましょう。
・ワークブックやその他の課題の提出を忘れずに行いましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson 7 Social Media and Communication	Part 1: コミュニケーションの方法が時代とともに変化してきたことを理解する。/ 付帯状況を表す with の使い方を理解する。 Part 2: 科学技術がコミュニケーションに与えた影響を理解する。/I wish+仮定法過去の使い方を理解する。 Part 3: オンラインコミュニケーションが人間関係や言語に与える影響について理解する。/部分否定の使い方を理解する。 Part 4: ソーシャルメディアの課題や利点について理解する。/S+V(=be 動詞)+C(that 節)の使い方を理解する。		
	5	Lesson 8 People and Robots	Part 1: “robot”の語源とロボット技術の進展について理解する。/ suggest に続く that 節の使い方を理解する。Part 2: セラピーロボットの役割について理解する。/動名詞の意味上の主語の使い方を理解する。 Part 3: アバターロボットとは何かについて理解する。/if 節に代わる表現の使い方を理解する。 Part 4: 将来のロボットに求められる役割について理解する。/未来完了形の使い方を理解する。	17	
	6	Lesson 9 All about Zoos	Part 1: 動物園の起源について理解する。/ 完了不定詞の使い方を理解する。Part 2: イマージョン展示とは何かについて理解する。/同格の that 節の使い方を理解する。 Part 3: 環境エンリッチメントについて理解する。/省略表現の使い方を理解する。Part 4: 動物保護における動物園の役割について理解する。/完了形の分詞構文使い方を理解する。		
	7				
第2学期	9	Lesson10 No One Is Too Small to Make a Difference	Part 1: グレタさんの活動初期の状況について理解する。/ 強調構文の使い方を理解する。Part 2: グレタさんの活動がどう広がったかを理解する。/as if+仮定法の使い方を理解する。 Part 3: グレタさんの主張や表現方法の工夫を理解する。/倒置の使い方を理解する。Part 4: グレタさんの主張や具体的行動について理解する。/be＋to 不定詞の使い方を理解する。		
	10	Lesson 1 Laughter	Part1：笑いとは何かについて理解する Part2：笑いのポジティブな効果について理解する Part3：社会における笑いの役割について理解する		
	11	Lesson 2 A Black and White Beauty Lesson 3 Water	Part1：パンダという動物について理解する Part2：パンダの生活について理解する Part3：絶滅の危機にあるパンダを保護する取り組みについて理解する Part1：水が限られた資源であることについて理解する Part2：水の危機の現状について理解する	15 6	
	12	Lesson 4 Coffee Travels the World	Part3：水資源の活用や節水への取り組みについて理解する Part1：コーヒーの歴史について理解する Part2：コーヒーの特徴について理解する		
第3学期	1		Part3：コーヒーをとりまく経済的状況とフェアトレードについて理解する		
	2				

【外国語科　シラバス】

科目名	論理･表現Ⅲ			使用教材	教科書	be English Logic and Expression Ⅲ Clear（いいずな書店）
学　年	3	単位数	2		副教材	be English Logic and Expression Ⅲ Clear Grammar Book （いいずな書店）
科・コース	普通科進学コース					

【授業の概要】

身近な話題（日常生活，学校生活，メディア，　地域など）から社会的な話題（文化，人権，環境，社会問題 など）までを取り上げ，主体的に２技能３領域の活動をバランスよく行います。各レッスンは〈導入〉〈定着〉〈発展〉の３ユニット構成であり，〈定着〉ページでは項目ごとに小さな言語活動に取り組みます。言語や文化に対する理解を深め，コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに，論理的な思考力を養い，論理の展開や表現の方法を工夫し，伝える能力を養います。

【学習方法と授業の進め方】

話すこと[やりとり]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした活動を教科書中心で授業を進めていきます。さらに各レッスンで出てきた知識・技能を定着させるために文法項目を中心とした学習を,ワークブックを利用しながら進めていきます。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・各レッスンで出てくる文法項目やきまりの特徴に関する事項を理解している。 ・各レッスンで出てくる場面に応じた表現や重要表現とその意味を理解している。 ・各レッスンで出てくる表現などを用いて，事実や自分の考え気持ちを整理し,また状況に応じて即興で伝え合うことや発表する技能,さらに正確に書く技能を身に付けている。 ・事実や自分の考え気持ちを発表するための基本的な語句や文,文法項目事項を身に付けている。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題。
②思考・判断・表現	・事実や自分の考え,気持ちなどを即興で伝え合っている。 ・事実や自分の考え気持ちなどを整理し,発表している。 ・事実や自分の考え,気持ちなどを整理し,正確に書いている。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題。 ・発表や書くことを中心とした活動。 ・課題の提出状況。
③主体的に学習に取り組む態度	・基本的な語句や文を用いて，事実や自分の考え気持ちなどを即興で伝え合おうとまたは発表しようとしている。 ・基本的な語句や文を用いて,事実や自分の考え気持ちなどを整理し,発話したり,正確に書こうとしている。	・授業中やペアやグループワークでの発言や参加態度。 ・ワークブックや課題等の提出状況。

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・教科書に事前に目を通し，基本的な語彙や表現を言うことや書くことができるように準備しておきましょう。
・授業では,意欲的な発言やペアワーク・グループワーク,発表の際にも積極的に参加しましょう。
・ワークブック等の課題の提出期限は厳守しましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson1 A City Worth Visiting	受動態		
	5	Lesson2 Our Hometowns	時制		
	6	Lesson3 What Makes a City Attractive? Lesson4 How Do You Spend Your Time?	助動詞 比較		
	7	Lesson5 Trying Something New	比較	13	
第2学期	9	Lesson6 The Art of Translation Lesson7 Combatting Climate Change	副詞・形容詞 関係代名詞		
	10	Lessoon8 Future Energy Sources	分詞	7	
	11	Lesson9 Discussing the Environment Lesson10 Globalization and Immigration	不定詞 不定詞	7 10	
	12	Lesson11 What is Fair Trade?	動名詞		
第3学期	1	Lesson12 Helping to Fight Poverty	不定詞	1	
	2				
	3				

【外国語科　シラバス】

科目名	英語演習			使用教材	教科書	
学　年	3	単位数	2		副教材	英語総合問題演習　WIDE ANGLE
科・コース	普通科　進学ース					

【授業の概要】

4 年制大学入試対策として、読解力・文法力・作文力・リスニング力の総合的な向上を目指す。
社会・科学・歴史・日常と多様なテーマの教材を活用し、様々な分野に関する語彙力や背景知識を獲得することで、各学部の出題傾向に対応できる英語力を養う。

【学習方法と授業の進め方】

［予習］授業前に教材を読み、設問に答えておく。
［授業］文章の流れに注目し内容把握に努める。頻出語句や文法事項を確認する。
［復習］文章を精読し内容理解を深める。授業中に扱った頻出語句をしっかりと覚える。文法事項は、参考書等を参照し確実に理解しておく。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・英語の 4 技能（聞く，読む，話す， 書く）について実際のコミュニ ケーションにおいて活用できる知識・技能 を身に付けている。 ・英語の学習を通じて，言語の働きや役割などを理解している。 ・英語を通じて，異文化に興味を持つことができる。	・定期考査の「知識・技能」に関する問題
②思考・判断・表現	・場面，目的，状況等に応じて，日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について，情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	・定期考査の「思考・判断・表現」に関する問題
③主体的に学習に取り組む態度	・他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って，自律的，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の発言 ・課題等の提出状況

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

授業で学習したことを必ず復習して確実に身につけておきましょう。定期テストのためだけの学習にとどまらず、大学入試で得点できることを目的に勉強に取り組んでください。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	Lesson 1	Eメール・日常　基本時制		
	5	Lesson 2 Lesson 3	体験談・留学　完了形 会話文・日常　助動詞		
	6	Lesson 4 Lesson 5	広告・スポーツ　受動態 エッセイ・学習　不定詞1		
	7	Lesson 6 Lesson 7	論説文・比較文化　不定詞2 論説文・自然科学　動名詞		
第2学期	9	Lesson 8 Lesson 9	広告・芸術　分詞 論説文・健康　関係詞1		
	10	Lesson 10 Lesson 11	伝記・ヒューマン　関係詞2 論説文・健康（グラフ）　比較1		
	11	Lesson 12 Lesson 13	論説文・建築（グラフ）　比較2 論説文・経済　仮定法1		
	12	Lesson 14	論説文・自然科学　仮定法2		
第3学期	1	Lesson15	ノンフィクション・ヒューマン　接続詞		
	2				
	3				

【保健体育科　シラバス】

科目名	体育			使用教材	教科書	MY　SPORTS（大修館書店）
学　年	３学年	単位数	２単位		副教材	なし
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

・運動の合理的な実践を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、運動能力や体力の向上を図り、自主自立を身につけた豊かな人間性の育成を重点においています。
・生涯を通して継続的に運動ができる資質や能力を育てる科目です。

【学習方法と授業の進め方】

・体育委員が集合、整列、準備運動を行います。
・授業の内容説明と健康状況の確認をします。
・個々のレベルを把握し初歩的な技術を習得します。
・ゲーム形式で行います。
・整理運動と授業のまとめをします。

【学習評価】

・スキルテストをはじめ下記の観点別学習評価により総合的に評価する。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・様々な種目における技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解しているか。 ・ゲームや競技会の仕方などを理解しているか。 ・基本動作や、基本となる技を作戦や状況に応じて用いてゲーム展開をしているか。	・スキルテスト ・ゲーム（簡易ゲームも含む）
②思考・判断・表現	・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見しているか。 ・課題を解決するための練習の計画を立てているか。 ・自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘しているか。 ・グループ学習においてチームや自己の役割を提案しているか。	・グループ学習 ・ゲーム（簡易ゲームも含む）
③主体的に学習に取り組む態度	・主体的に取り組んでいるか。 ・フェアプレイを大切にしているか。 ・話し合う場面で合意形成に貢献しようとしているか。 ・健康、安全を確保しているか。	・グループ学習 ・スキルテスト ・ゲーム（簡易ゲームも含む）

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・学校指定の体操服、シューズを着用してください。また、こまめに洗濯し衛生面に気をつけましょう。
・授業はチャイムと同時に始めますので、休み時間のうちに活動場所に移動しておいてください。
・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
・貴重品の管理をしっかり行うようにしてください。
・安全面には充分気を配りましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	集団行動 体つくり運動、体育理論	・集合　・解散　・列の増減　・開列　・方向転換　・行進 ・行進からの方向転換　・かけ足　・複合動作　・まとめ、評価 ・体ほぐしの運動　・体力を高める運動	3	
	5	新スポーツテスト （８種目を実施）	・50m 走　・立ち幅跳び　・ハンドボール投げ ・持久走　・握力　・上体起こし　・長座体前屈　・反復横跳び	3	
	6	バドミントン (1)オリエンテーション (2)ストローク　応用	・学習内容の理解、安全性とマナー、ラケットの握り方 ・オーバーヘッドストローク（フォア、バック）	3	
	7	(3)ラケットワーク応用 (4)ゲーム形式	・クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン ・ダブルスによるリーグ戦	3	
第2学期	9	ソフトボール (1)オリエンテーション (2)キャッチボール	・学習内容の説明、安全とマナー ・スローピッチの練習、近距離から遠距離へのキャッチボール	3	
	10	(3)守備 (4)打撃 (5)ゲーム	・ゴロ、フライの捕球練習、シートノック ・近距離でのバント、トスバッティング、フリーバッティング ・スローピッチでのゲーム	3	
	11	硬式テニス (1)ストローク (2)ボレー	・1 対 1 で向かい合い、投げたボールを軽く打ち返す ・ストレート、クロスラリー・グリップ、フットワーク	3	
	12	(3)サービス (4)ゲーム	・トス、基本的なフォーム ・ゲーム形式での練習、リーグ戦で試合を行う、審判法を学ぶ	3	
第3学期	1	卓球 (1)サービス・ストローク (2)ゲーム	・ドライブ、カットサービス、フォアハンド ・バックハンドストローク ・簡易なシングルス　・ダブルスのゲーム　・リーグ戦	3	
	2	(3)まとめ、評価	・まとめ、評価	3	
	3				

【保健体育科　シラバス】

科目名	武道（空手道）			使用教材	教科書	ＭＹ　ＳＰＯＲＴＳ　（大修館書店）
学　年	３年生	単位数	１単位		副教材	なし
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】
・空手道の歴史や特性を学び、基本的技術を身につけます。
・礼儀作法を学び、集中力を高めます。
・大きな気合いを出すことにより、表現を取り入れます。
・精神力を養い、技術と体力を高めます。

【学習方法と授業の進め方】
・始めと終わりは空手道の礼法（座礼・立礼）で黙想をし、精神統一します。
・準備運動、補強運動を行い体を温めます。
・基本技の練習、移動基本の練習を行います。
・形の練習（個人・団体）を行います。
・実戦を意識した攻撃と防御の練習を行います。
・グループ練習、発表を行います。

【学習評価】
・積極的に授業に参加しているか。
・協力して運動しているか。
・技能・体力の向上に努めているか。
・授業の内容を理解し、実践しているか。
・正しい礼儀作法・所作が出来るか。
・正確な技を身につけ、正しい形を演武出来るか。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・空手道の歴史や特性を理解し、武道としての礼儀作法や所作を身につけることが出来ているか。 ・基本技術を正しく習得し、目的に応じた実践が出来ているか。 ・基本技術を応用させ、正しい順序で形を覚えることが出来ているか。 ・形演武と組手実技の実践が出来ているか。	・授業の取り組み ・個人、グループ練習 ・実技テスト
②思考・判断・表現	・習得した技術を実戦的に捉え、表現出来ているか。 ・対人やグループになる練習では、お互いの動きを考察・分析しながら取り組めているか。 ・形（個人・団体）は正しい順序や技術だけでなく、表現力を取り入れられているか。	・授業の取り組み ・個人、グループ練習 ・実技テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・空手道に関心を持ち、生涯を通じて健康な体づくりと精神を養う見方が出来ているか。 ・空手道は競技スポーツと武道の２つの概念があることを理解して取り組んでいるか。 ・授業に積極的に参加し、説明や実技例をよく聞いて観察する姿勢が出来ているか。 ・仲間やグループと協力して取り組んでいるか。	・授業の取り組み ・個人、グループ練習 ・実技テスト

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど
・学校指定の体操服を着用し、裸足で行います。時計などの装飾品は全て外してください。
・授業はチャイムと同時に始めますので、休み時間のうちに活動場所に移動するようにしてください。
・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
・貴重品の管理をしっかり行うようにしてください。
・健康チェックと安全面には充分気を配りましょう。
・空手道は礼に始まり礼に終わります。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	空手道の概要 礼儀作法	授業の流れ　空手道の歴史　空手道の現状 高校生としての空手道　年間練習計画 DVD 鑑賞　礼法について（座礼・立礼）	3	
	5	基本の立ち方と所作 立ち基本	閉塞立ち　結び立ち　平行立ち　八字立ち ﾅｲﾌｧﾝﾁ立ち　四股立ち　騎馬立ち　用意と直り 正拳突き　上段上げ受け　下段払い　中段内受け	3	
	6	立ち基本 発表・評価	中段外受け　手刀受け　前蹴り グループ発表　個人発表 評価	3	
	7	移動基本の立ち方と運足 移動基本 まとめ	前屈立ち（左右）　前屈立ちでの移動　回り方 順突き　逆突き　上段上げ受け　下段払い まとめ	3	
第2学期	9	移動基本 発表・評価	中段内受け　中段外受け　手刀受け　前蹴り 横蹴り（足刀）　回し蹴り グループ発表　個人発表　評価	3	
	10	形	個人形 「平安初段」の習得 グループ練習　個人練習	3	
	11	形	個人形 「平安二段」の習得 グループ練習　個人練習	3	
	12	発表・評価 組手（約束組手） 組手（約束組手応用）	個人形演武　評価 相手からの攻撃を防御して反撃（上段・中段・下段） 約束組手を連続の攻防で行う（上段・中段・下段）	3	
第3学期	1	組手（実戦技と動き） 発表	ｽﾃｯﾌﾟ ﾜｰｸ　突き技　蹴り技　ﾐｯﾄ打ち　反応 実技発表	3	
	2	まとめ・評価	まとめ	3	
	3				

【保健体育科　シラバス】

科目名	ダンス			使用教材	教科書	MY　SPORTS(大修館書店)
学　年	３学年	単位数	１単位		副教材	なし
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

誰にでもできるダンスステップや踊りを自由に工夫することにより、生涯を通じて継続的に体を動かす資質や能力を学びます。

運動の楽しさや喜びを味わい、創造力、思考力、判断力が高められる教科です。

【学習方法と授業の進め方】

・体を使うために準備体操、柔軟を実施します。
・基本的なダンスステップの練習をし、組み合わせて踊ります。
・音楽に合わせてダンスステップの組み合わせた演技を踊ります。
・与えられたステップと音楽から各自がイメージを引き出し、置き換えて踊ります。
・手具(ボール等)を使った演技を実施します。

【学習評価】

・積極的に授業に参加しているか。
・協力して運動しているか
・技能・体力を高めているか。
・自ら課題を見つけ、解決を目指して運動の仕方を工夫しているか。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・正しい振りを理解し、踊ることができる。 ・新しい振りを習得することができる。 ・いくつかの振りを組み合わせて踊ることができる。 ・リズムを取りながら踊ることができる。 ・動きの名称を理解している。	実技試験 行動観察
②思考・判断・表現	・自己及び他人の振りを見て理解し、良いところや直すべき点を相手に伝えている。 ・大きく振りを見せるために動きを工夫して踊っている。 ・表情豊かに踊っている。	実技試験 評価表の提出 行動観察
③主体的に学習に取り組む態度	・安全に留意し、仲間と協力して活動している。 ・グループワークで自分から積極的に発言しようとしている。 ・積極的に振りを身に付けようと努力している。 ・創作ではグループのメンバーと協力して振りを考えようとしている。 ・時間を守り行動しようとしている。 ・出された指示に対して素早く行動しようとしている。	行動観察

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・学校指定の体操着・シューズを着用して下さい。また、こまめに洗濯し衛生面に気を付けるようにしましょう。
・授業はチャイムと同時に始めますので、休み時間のうちに着替えを済ませ、活動場所に移動するようにしてください。
・見学者は授業前に申し出るようにしましょう。
・貴重品の管理をしっかり行うようにして下さい。
・安全面には十分に気を配りましょう。
・全体で協力して授業を進めて行きましょう。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	○オリエンテーション ◎現代的なリズムダンス （1）ステップの基本	・学習内容の理解 ・ボックス、クロスステップなど	3	
	5	（2）ステップの組み合わせ	・ツーステップ、ギャロップなど ・基本ステップを組み合わせて踊る ・腕や顔も動かしながら踊る	3	
	6	（3）音楽に合わせる	・組み合わせた演技を音楽に合わせて踊る ・各自がイメージを引き出しながら踊る	3	
	7	（4）発表・評価	・グループで発表 ・評価	3	
第2学期	9	◎チアダンス （1）ステップの基本	・基本的なステップを組み合わせて踊る	3 17	
	10	（2）音楽に合わせる	・組み合わせた演技を音楽に合わせて踊る	3 17	
	11	（3）発表・評価	・グループ発表 ・評価	3 17	
	12	◎新体操(ボール)	・手具の基本的な使い方 ・音楽に合わせて手具を使用する。	3	
第3学期	1	◎創作ダンス （1）注意事項	・流れの理解 ・グループ編成 ・曲の決定	3	
	2	（2）音楽に合わせ創作	・各グループ創作	3	
	3	（3）発表・評価	・グループ発表 ・評価	3	

【保健体育科　シラバス】

科目名	保健			使用教材	教科書	現代高等保健体育　　（大修館書店）
学　年	3	単位数	1		副教材	現代高等保健体育ノート（大修館書店）
科・コース	普通科　特別進学選抜コース・特別進学コース・特別進学国際コース・進学コース					

【授業の概要】

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにする。
生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てる。

【学習方法と授業の進め方】

保健は２年間を通じて学びます。
保健に関する情報は日々変化し、マスメディアなどから健康問題に関するさまざまな情報があふれています。
生徒の皆さんが間違った認識をもたないように正しい知識を身につけていきます。
健康を維持増進していくために身体の仕組みを知り、最終的に健康とは何かについて考えます。
疑問があればそのままにしてしまわずに進んで質問してください。
授業は板書やワイード、プリントを使用して進めます。

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点別評価により総合的に評価します。

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・現代における精神保健の課題をあげることができたか。 ・精神疾患の予防法を理解できたか。 ・感染症の定義、新興感染症と再興感染症の問題としての薬剤耐性菌の出現について理解できたか。 ・感染予防の原則として感染源対策・感染経路対策・感受性者対策、現代の感染症についての社会と個人に分けた対策について理解できたか。 ・性感染症、エイズとＨＩＶの関係、予防法について理解できたか。 ・心肺蘇生法の原理と意義、手順として胸骨圧迫・気道確保と人工呼吸・ＡＥＤの使用について基礎的な事項を理解できたか。	・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み
②思考・判断・表現	・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できるか。 ・精神疾患の治療について例をあげて説明できるか。 ・感染症予防の原則、現代の感染症についての対策について具体的な事例などを比較したり分類したりするなど筋道を立ててそれらを説明できるか。 ・応急手当や心肺蘇生法の各手順を総合的に考え、判断し表現しているか。 ・保健行政の役割、保健情報の活用について資料などで調べたことを整理できたか。	・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み
③主体的に学習に取り組む態度	・心身の健康に関心を持ち学習しているか。 ・自ら健康的な生活を実践するため、健康課題の解決に意欲的に取り組もうとしているか。 ・生涯の各段階におけるこれからの健康課題の解決に向け、学習に積極的に取り組んでいるか。	・授業態度 ・期末考査の知識・理解に関する問題 ・ノート提出 ・課題プリントへの取り組み

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・教科書や学習ノートを必ず用意し、配布される資料やプリントは、きちんと保管してください。(定期考査に役立ちます)
・ノートをとる際は、ただ板書を書き写すのではなく、先生の発言も聞き逃すことなくメモをとるようにしましょう。
・提出物は遅れずに忘れず提出してください

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	精神疾患の特徴	精神疾患の発病の要因とおもな症状についてと今日的課題を学びます。 ・精神疾患の要因と種類 ・精神保健の今日的課題	3	
	5	精神疾患の予防	精神疾患の予防法や早期発見のために必要なことを学びます。 ・日常生活における精神疾患の予防 ・精神疾患の早期発見・早期治療	3	
	6	精神疾患からの回復 現代の感染症	精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要かを学びます。 ・専門家による支援と治療 ・社会環境の整備 新たに注目される感染症、再び問題となっている感染症について学びます。 ・感染症とは ・新たに注目せれる感染症 ・再び問題となっている感染症	3	
	7	感染の予防	感染症予防の３原則や現代の感染症についての社会と個人の対策について学びます。 ・感染症予防の３原則 ・現代の感染症対策	3	
第2学期	9	性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択	性感染症・エイズとは何か予防法と社会と個人の対策について学びます。 ・性感染症・エイズとは ・性感染症・エイズの予防 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫を学びます。 ・意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 ・適切な意思決定・行動選択を実現する工夫	3	
	10	健康に関する環境づくり 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当	ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴を学びます。 ・健康を保持増進するための環境 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくり 応急手当の意義について理解し、適切な手順を学びます。 ・応急手当の意義 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の方法を学びます。	3	
	11	心肺蘇生法	心肺蘇生法の方法と手順について学びます。 ・心肺蘇生法の意義と原理 ・心肺蘇生法の手順 ・AED の使用法	3	
	12	心肺蘇生法実習	心肺蘇生法訓練用人形を使用し実際に行い技術を身につけます。	3	
第3学期	1	まとめ	２年間、保健で学んできたことを復習します。	3	
	2				
	3				

【音楽科　シラバス】

科目名	音楽Ⅰ			使用教材	教科書	音楽Ⅱ　Tutti+(プラス)
学　年	3	単位数	1		副教材	Music note
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

高校１年生で音楽Ⅰを週に１回履修しました。その上で更に深く研究するのが３年生の音楽Ⅰです。教科書は音楽Ⅱを使用します。音楽は、文字通り「音を楽しむ」ものです。決して「音が苦」になってはいけません。音楽をする喜び、楽しみを味わい、芸術に対する興味、関心も深めましょう。またその活動を通して人間性を育み感性を豊かにする事こそ３年の音楽Ⅰの目標です。

【学習方法と授業の進め方】

３年の音楽Ⅰの授業の中心は「歌」と「鑑賞」です。独唱曲を中心に、歌唱力を身につけ、世界の多くの歌、日本の歌に触れていきます。特に外国の歌では、イタリア語、ドイツ語の歌曲も取り上げ、原語で歌って行きます。また、教科書以外の音楽も取り入れ、楽しく歌って行きます。２学期には、映像の授業も取り入れて、充実した音響と映像設備によるクラシック、日本音楽鑑賞、オペラ・ミュージカル鑑賞等も行います。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	【知】言葉の特性と曲種に応じた発声(奏法)との関わり，曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 【技】曲にふさわしい発声(奏法)，言葉の発音，身体の使い方、奏法などの技能を身に付け，歌唱で表している。 【知】日本語の抑揚，アクセント，リズムなどの言葉の特性及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解している。 【技】音符の特性を生かしてリズム打ちなど演奏技能を身に付け，表現している。 【知】鑑賞において曲想や表現上の効果と音楽の構造ミュージカルオペラについての知識を理解している。	定期考査、授業中の歌唱　発表等
②思考・判断・表現	音色，リズム，旋律，強弱，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，自己のイメージをもってどのように歌うか、演奏するかについて思いや意図をもっている。 自分や社会にとっての音楽の意味や価値，音楽表現の共通性や固有性について考え，曲や演奏に対する評価とその根拠について、ミュージカルやクラシック音楽日本の能楽の良さや美しさを自ら味わって鑑賞している。	定期考査、歌唱の実技試験
③主体的に学習に取り組む態度	ドイツ語、イタリア語の言葉の特性や曲にふさわしい発声で表情豊かに歌うことに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的･協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 日本語の抑揚や間，語感，歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズにどのように表され，曲想を生み出しているかに関心をもつ。 リズム打ち奏法を身に付けることや技能の習熟度に応じた楽曲の音楽表現を創意工夫しながらリズムアンサンブル活動をすることに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的･協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 ミュージカルの表現力の発見、オーケストラの響き，ソナタ形式において主題が展開されたり再現されたりする面白さに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的･協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	音楽鑑賞のノート提出、授業中の歌唱練習観察、リズム打ち視察、ミュージカル、クラシック音楽、能楽等の鑑賞態度等

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど
音楽は、特に予習も復習も必要ありません。その代わり、週１回の貴重な時間、積極的な取り組みを期待します。音楽を理解し、愛好する心情を育むには、能動的なかかわり方が求められます。決して受身にならず、主体的な姿勢で授業に臨むことが必要です

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	美しい発声 日本の歌(1) 校歌応援歌愛唱歌	昔から歌われてきた有名な日本の歌を学習。 日本の四季を味わう曲を歌う。 校歌応援歌愛唱歌　１年を通して授業最初に歌う	16	
	5	ドイツの歌を歌おう 校歌応援歌愛唱歌	世界でも有名なドイツ語で歌う歌曲を勉強します。変わった発音、ウムラウトなど、ユーモアを含めて楽しく歌って行きます。有名な日本の歌も学習します。	16	
	6	イタリア・フランスの歌を歌おう　楽典 音楽鑑賞 校歌応援歌愛唱歌	イタリアのカンツォーネと言えば、世界を代表する歌です。また、「お-シャンゼリゼ」などもその魅力をあますことなく味わいます。また簡単な音楽の知識の学習、音楽鑑賞も行います。楽典の学習	16	
	7	世界の歌 楽典 音楽鑑賞 校歌応援歌愛唱歌	イギリス、イタリア、ドイツの歌を総合的に探究し、歌いこんでゆきます。音楽理論を学びます。クラシック音楽をわかり易く解説しバロックを鑑賞します。 楽典の学習	16	
第2学期	9	ミュージカル鑑賞　① 「キャッツ」主題歌歌唱 日本歌曲歌唱 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	ミュージカル「キャッツ」の鑑賞　T・Sエリオットの詩集「キャッツポッサムおじさんの猫と付き合う法をもとに作られた猫の幻想的世界を鑑賞する。 「からたちの花」「さくらさくら」等歌う 仰げば尊し練習	16	
	10	ミュージカル鑑賞　② 「アラジン」主題歌歌唱 英語の歌唱 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	ミュージカル「アラジン」の鑑賞　砂漠の王国アグラバーで貧しい暮らしを送る青年。テーマ曲の歌唱。 「イエスタディワンスモア」ポップスを歌う。 仰げば尊し練習	10	
	11	オペラ鑑賞 「トゥーランドット」 「ほたるこい」合唱 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	「トゥーランドット」夜明けまでにあの見知らぬ者の名がわかるまで北京では誰も寝てはならぬ」有名なアリアを中心に勉強し、歌唱。 「ほたるこい」三重唱までできるよう練習をする 仰げば尊し練習	10	
	12	ミュージカル鑑賞 「美女と野獣」歌唱 アジアの歌「アリラン」 卒業式歌 校歌応援歌愛唱歌	ミュージカル「美女と野獣」フランスの小さな町に住む、読書好きなちょっとかわった娘、ベルを中心に歌を中心としてテーマ曲を歌唱と鑑賞。 韓国の民謡を勉強する。仰げば尊し練習	10	
第3学期	1	能の研究をしよう 卒業式歌	能「羽衣」について学習、鑑賞する。 仰げば尊し　校歌　練習	10	
	2	卒業式歌 卒業関係の歌唱	仰げば尊し　校歌　練習 「卒業写真」　他		
	3				

【家庭科　シラバス】

科目名	保育基礎			使用教材	教科書	保育基礎　ようこそ、ともに育ちあう保育の世界へ　（教育図書）
学　年	３学年	単位数	2		副教材	
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

①子どもがどう発達し、どのような保育が必要かを学ぶ
②職業として子どもにかかわる保育者の視点を考え学ぶ
③教科を通して保育者としての自覚と知識を高める

【学習方法と授業の進め方】

①本文を確認し、その項目における課題の説明、板書をする
②各項目の要所で映像を取り入れながら、情報を取得する
③時勢における情報を大いに取り入れ、教科書だけでは得られない、実践に直結する知識を与える
④授業には、「おやつ作り」や「玩具製作」などの実習も取り入れる
⑤保育に限定せず、「生」教育を目指す

【学習評価】

定期テストおよび下記の観点評価により総合的に評価する

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に学習する ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につける	・定期考査の知識・理解に関する問題 ・課題プリントへの取り組み ・ノート作成状況 ・作品制作や実習への取り組み
②思考・判断・表現	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につける	・定期考査の思考・判断 ・課題プリントへの取り組み ・作品制作に対する表現や思考
③主体的に学習に取り組む態度	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につける	・作品制作に対する仕方や態度 ・実習に対する態度や取り組み ・課題プリントへの取り組み

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

・教科書の内容だけでなく、様々取り入れられる映像なども参考にして知識を高めましょう
・作品作りも大切な授業内容です。自分のアイディアや工夫、子どもの関心なども考慮して取り組みましょう
・実習は衛生管理や、栄養、環境を考慮できる人材育成を目指します

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	1章　子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の環境	 ・保育とは何か ・育ての心 ・子どもが育つ環境 ・家庭での養育 ・さまざまな保育の場 ・集団保育の重要性	1.3. 4.5	
	5	③保育の方法	・保育の方法の基本	1.3	
	6	2章　子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達	 ・発達とは何か ・乳幼児期の大切さ ・発達の共通性 ・発達の個人差 ・発達と環境 ・乳幼児期の発育 ・乳幼児期の生理的特徴 ・乳幼児期の発達の特性	3.4	
	7	3章　子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 ・調理実習	 ・子どもの養護 ・生活習慣の習得 ・栄養と食生活 ・乳児の食事 ・離乳 ・幼児の食事	3.12	
第2学期	9	③子どもの衣服と寝具 ④子どもの健康と安全	・子どもの衣服の役割 ・子どもの衣服の選び方 ・子どもの衣服の調節 ・おむつ ・子どもの寝具など ・保育者の役割 ・子どもの病気の特徴・養護の方法・予防 ・子どもの安全		
	10	4章　子どもの福祉 ①保育にみる児童観 ②児童福祉の理念と 法規・制度 ・作品制作	 ・大人の意のままになる存在 ・「子ども」の発見 ・児童福祉の歴史・法律・施設	1.3. 4.5	
	11	5章　子どもの文化 ①子どもの文化の意義 ②子どもの文化を 支える場 ・作品制作	 ・子どもの文化とは・現状 ・児童文化施設	3.4	
	12	③子どもと遊び ④子どもの表現活動 ・作品制作	・遊びの意義 ・遊びの種類と発達・現状 ・子どもの表現活動の意義 ・造形表現活動 ・言語表現活動 ・音楽・身体表見活動 ・情報手段などを活用した表現活動		
第3学期	1	・調理実習			
	2				
	3				

【情報科　シラバス】

科目名	情報演習			使用教材	教科書	最新情報Ⅰ（実教出版）
学　年	3	単位数	2		副教材	セミナー情報Ⅰ（第一学習社）
科・コース	普通科　進学コース					

【授業の概要】

１年次に履修した情報Ⅰを復習しながら、共通テスト情報Ⅰ対策を実施します。
今年度より始まる、共通テスト情報Ⅰ対策として、発表されている試作問題やサンプル問題の解説や、過去の大学センター試験の情報や私大の情報問題など、問題を解きながら内容を理解していきます。
基本的に、座学です。

【学習方法と授業の進め方】

座学を中心に行います。副教材に合わせて問題を解き進め、解説をしていきます。必要に応じて、１年次に使用した情報Ⅰの教科書も利用します。
また、実技が必要な際にはクロームブックを活用します。

【学習評価】

観点別評価

評価の観点	内容	評価方法
①知識・技能	情報と情報技術を問題の発見･解決に活用するための知識について理解し，技能を身に付けているとともに，情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	定期考査の知識・理解に関する問題 課題への取り組み
②思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見･解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	定期考査の知識・理解に関する問題 課題への取り組み
③主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。	定期考査の知識・理解に関する問題 課題への取り組み

【留意事項】授業に取り組む上でのアドバイスなど

難しい内容もあると思いますが、暗記ではなく、しっかり理解できるように努力しましょう。復習は必須です。
これから共通テスト対策の参考書や問題集も出てくると思うので、実際に受験する生徒は、そういった本を購入して勉強することをお勧めします。

年間指導計画

学期	月	単元名	学習内容	SDGs	備考欄
第1学期	4	第１章 　情報社会の問題解決	情報とは 問題解決		
	5		情報社会の安全対策とルール 情報技術		
	6	第２章 　デジタル化と情報デザイン	数値のデジタル表現 さまざまなデジタル表現		
	7		コミュニケーションと情報デザイン		
第2学期	9	第３章 　コンピュータとプログラミング	コンピュータのしくみ アルゴリズムとプログラミング		
	10		アルゴリズムとプログラミング モデル化とシミュレーション		
	11	第４章 　ネットワークとデータの活用	ネットワークとセキュリティ データベース		
	12		データの分析		
第3学期	1		まとめ		
	2				
	3				